

株式会社どすこい

児童発達支援・放課後等デイサービス 支援プログラム

## C-9 ワクワク竹のご飯作り

■「一人一人にそれぞれのフツウ」

■自分で感じ・考え・選び・決める・行動する

■視覚的・具体的・肯定的なコミュニケーション

取組み	①健康・生活	②運動・感覚	③認知・行動	④言語・コミュニケーション	⑤人間関係・社会性	家族支援	地域支援
竹のごはんつくりとは（導入）			■竹のごはんつくりをしていくための見通しをたてる。■作り方を動画や写真で伝える。■楽しさ、味を想像してみる。	■考えたこと、感じたことを言葉にして他者に伝える。	■自分の意見と他者の意見の違いを受け止め、意見交換を行う。	■森での炊飯で感じたこと・経験したことを言葉にして、家族に伝える。■オープンフィールドのメニューとして開催し、ご家族と一緒に竹のご飯作りを楽しむ。	■イベント化し、地域のみなさんと一緒に竹のご飯作りを楽しむ。
材料・器具の選択			■必要な材料・器具を考える。■使用する竹の年数（見分け方）・太さ・長さ。■竹の切り出し方。	■考えたこと、感じたことを言葉にして他者に伝える。	■必要物品のリストを作成する。■自分の意見と他者の意見の違いを受け止め、意見交換を行う。		
竹の切り出し① 出発準備	■体調の確認		■竹林に入るときの装備の確認。	■自分の装備が完了していることを他者に言葉で伝える。■他者の装備が完了していることを互いに言葉で伝え合う。	■全員の装備が完了しているか、互いに確認しあう。■不備があれば助ける。助けてもらう。		
竹の切り出し② 移動		■道のない不整地・斜面を安全に移動する。■姿勢の保持。■五感で四季を感じる。	■道がない場所で、進路を自分で考え・選び・決める。■自分で決めた進路を実際に進む。■危険な箇所に気付いた場合は言葉で互いに知らせあう。■感じた四季を言葉で他者に伝える。	■危険な箇所に気付いた場合は、言葉で互いに知らせ合う。■他者からの発信があった場合は、「聞こえた」「了解した」ことを発信者に伝える。	■全員が生還するため、「最も弱い・遅い・小さいメンバー」でも安全に進める進路を、全員で協議し選択する。■自分が希望する進路とは異なっている場合、安全のためには辛抱することを学ぶ。■安全のために他者を助ける、助けてもらおうことを学ぶ。		
竹の切り出し③ 伐採	■伐採時に最も怪我が発生しやすいので注意する。	■鋸を使って安全に竹を倒す。■「刃で切れる」「倒れてきた竹が頭に当たるといった危険を感じ取る。	■どういう状況で刃による切傷、竹による打撲・骨折などが起こるのかを考察する。	■考察した危険な状況について言葉にして伝え合う。■自分たちの意見を指導者に総括してもらう。	■安全な倒し方について、指導者の指示に従う。■退避場所も指導者の指示に従う。		

竹の炊飯器作り 竹皿・お箸作り		■鋸で竹を切り、玄能と鑿で蓋を作る。■竹皿・竹箸は鋸・鉋・横槌を使用する。■「刃で切れる」「玄能・横槌が当たる」といった危険を感じ取る。	■どういう状況で刃による切傷、玄能・横槌による打撲・骨折などが起こるのかを考察する。	■考察した危険な状況について言葉にして伝え合う。■自分たちの意見を指導者に総括してもらう。■上手くないとき助けを求める。■困っている子がいたら助けようか訊いてみる。	■ある程度の技術が求められる作業を通して、得意なこと、苦手なことを知る。■困ったときは助けを求める。■困っている子がいたら助ける。
調理① 焚火	■焚火については「支援プログラムA-7 焚火」参照。				
調理② 炊飯	■普段食べているごはんとの違いに気づく。	■火気・蒸気による火傷に注意する。■水が沸騰するまでの温度変化を、音や湯気の様子から感じ取る。■炊けていく過程を、匂いや湯気の様子から察知する。■竹筒のなかで、水とお米がどのようになっているかを想像する。		■音、湯気の様子、匂いから感じたこと、発見したことを言葉で表現し、他者に伝える。	■感じたこと、発見したことの共有。共感。
みんなで食べる ① 配膳		■竹筒からご飯を、しゃもじを使って竹の器に盛りつける。	■竹筒は熱くないか？ご飯をこぼさず盛り付けられるか？何人で分ける？食器は足りる？均等に分けられる？といったことに留意しながら盛り付ける。	■考察した留意点について言葉にして伝え合う。■上手くないとき助けを求める。■困っている子がいたら助けようか訊いてみる。	■ある程度の技術が求められる作業を通して、得意なこと、苦手なことを知る。■困ったときは助けを求める。■困っている子がいたら助ける。
みんなで食べる ② 食事	■普段食べているご飯との違いに気付く。	■竹で炊くことで風味に変化が生じていることに気付く。	■みんなで準備し作った竹ごはん、普段食べているご飯との違いに気付く。	■普段との違いについて言葉にして伝え合う。	■発見・感動の共有、共感。■「同じ釜の飯を食う仲間」としての一体感の確認。
片づける	■普段の片付けとの違いに気付く。	■竹炊飯器・竹食器は焚火で燃やす。■残飯は量が多ければ堆肥場にうずめる。■燃やした竹・堆肥場にうずめた残飯がどうなるのか、考察する。■焚火の片付けは「支援プログラム焚火」の項参照		■普段との違いについて言葉にして伝え合う。■燃やした竹・堆肥場にうずめた残飯がどうなるのか、言葉にして伝え合う。	■発見・感動の共有、共感。■「同じ釜の飯を食う仲間」としての一体感の確認。